



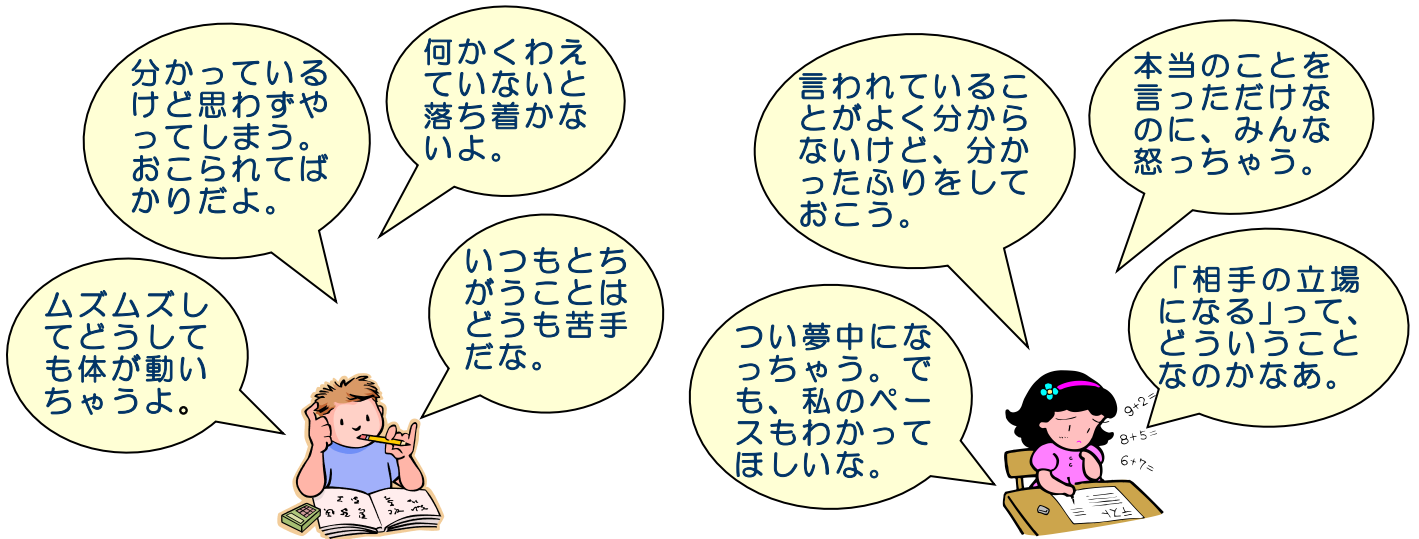
# 富士見丘小学校の特別支援教育

- Q1 特別な支援を求めている子供って？
- Q2 うちの子はどうか？ 子供の気になるサインは？
- Q3 富士見丘小は、どんな支援があるの？
- Q4 卒業したら？ その先はどうするの？
- Q5 特別支援で子供はどう変わるの？



## Answer 1 一見、自分勝手、我がままに見えますが...

■ 支援を求めている子供は、  
心の中でこのようなことばをつぶやいています。



■ よく見てみると、このような特徴が浮かび上がります。

- 感情や行動のコントロールが難しい
- こだわりが強く、新しい経験を受け入れにくい
- 自己中心的、わがままに見える
- ことばに表されない意図や場の雰囲気を読み取るのが難しい

これは、御家庭の教育やしつけの問題 **ではありません**



## STEP 1 子供の様子を丁寧にみることから始めます

一斉指導の中では学習や生活、友達との関わりがうまくいかない子供がいます。このような様子が見られる子供には、教室の中での一斉指導を窮屈に感じ、全体の指示についていけなかったり、席を離れたり、友達に手を出したりしてしまうことがあります。その時に教員は、「どうしてかな?」「何に困っているのかな?」と、子供が出している様々なサインへの気付きを大切に、校内で情報を交流しながら様子を丁寧にみることから始めています。



サインを見逃さない

そして教員は、この子供たちにはどんな手立てが有効なのかを探りながら日々の教育に当たっています。その子に合った手立てが比較的容易に見つかることもあれば、複数の教員でアイデアを出し合ってもうまくいかないこともあります。また、昨日までその方法でうまくいっていたのに、今日はどうやっても安定しないこともあります。



特別支援教育は、このような子供たちへの具体的な対応を、組織的に丁寧に検討して指導体制を整え、すべての子供が楽しく学校生活を送ることができる環境を作ることを目的としています。



## 複数の視点で子供を見ていきます

これまでは、教員の気付きが中心でした



### 教員の気付き

- 黒板の文字を写す時になると手が止まってしまうのはなぜかな。
- 書くのに他の子より必要以上に時間がかかるのはどうしてだろう。

### 丁寧な観察

どんな時に、どんなことで困るのか、じっくり様子を見て記録してみよう!

### 理解と手立ての例

- 視力に問題はないだろうか。座席を前にして大きな文字で板書してみよう。
- 書く量や時間を調整し、字の形については大目に見ることにしよう。



これからは複数の専門的な視点を加えて



特別支援教育コーディネーター

スクールカウンセラー

特別支援教室専門員

巡回臨床心理士

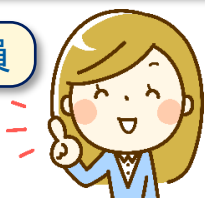
スクールソーシャルワーカー

大空教室指導員

校内別室指導支援員 R6~

さくら学級の教員

きこえとことばの教室の教員



このように、心理や福祉の専門家を加えて、「いつ」「どこで」「どのような時」「どんな課題が起こるか」という視点で子供の様子を見て、子供の困り感や課題となるつまずき、困難さなどを具体的に把握することに努めています。

特に低学年では、「生活習慣が身に付いていない」「しつけがよくない」などと、本当に特別な支援を求めるサインを見逃してしまいがちです。学年が上がるにつれて極端に学習が遅れたり、友達との関係がこじれて、登校を渋ったりするようなことにもなりかねません。学校として、できるだけ早く子供の出すサインに気付くことを大切にしています。